

二十世纪初中中国文章学名著

# 漢文典注釋

注釋

来裕恂

著 高维国

张格

注釋

南开大学出版社

95731

二十世纪初中国文章学名著

# 汉文典注释

来裕恂 著

高维国  
张 格 注释



\*200073473\*

南开大学出版社

〔津〕新登字011号

汉文典注释

来裕恂 著

高维国 张 格 注释

---

南开大学出版社出版

(天津八里台南开大学校内)

邮政编码 300071 电话 349318

新华书店天津发行所发行

山东新华印刷厂德州厂印刷

---

1993年2月第1版 1993年2月第1次印刷

开本：850×1168 1/32 印张：15.75 插页：6

字数：393千 印数：1—5000

ISBN7—310—00527—9/G·84 定价：14.50 元



今  
之  
所  
在

為  
之  
者

DI45/13

## 《〈汉文典〉注释》说明

《汉文典》是先祖来裕恂先生著述的一种。

先祖来裕恂先生字雨生，号匏园。清同治十二年四月十一日（1873年5月8日）生于浙江省萧山县长河乡。弟兄五人，先祖雁次行三。

先祖少攻经史诸子，年十八，肄业于杭州西湖诂经精舍，得晚清经学大师曲园俞樾先生青睐，赞誉他“颇通许、郑之学”。当时曲园老人已年逾古稀，犹吟诵不绝，时与诸生称道先祖诗才，认为由于先祖对诗“乐此不疲”，而使老人能“歌咏湖山，不虞岑寂”。《〈匏园诗集〉俞樾序》给予了颇高的评价。

光绪十八年，先祖方二十岁，就一面于杭州崇文、紫阳二书院以窗课博膏火资；一面还设帐授徒为稻粱之谋。光绪二十五年，主宗文义塾智斋教务二年。二十七年，应浙江大学前身的求是书院聘，任教职。二十九年，先祖三十岁，因受新思潮影响，乃典衣举债，东渡扶桑，入弘文书院师范科，并考察日本各类学校的教育状况。次年应聘主横滨中华学校教务。同年归里。是年冬，光复会成立，先祖以学识受知蔡元培氏而加盟入会。

民国肇建，先祖接任本县教育科长。次年，应邀入浙江省省长屈映光幕；不久辞去。三年春，北游京师。在京与鲁迅先生以旧识频相往来。居数月南归，家居著述。次年任县志馆分纂，参与编纂民国《萧山县志》；五年，县志告成。民国八年，先祖在杭州甲种女子职业学校执教。十二年，任葫芦岛航警学校教职员。十

六年，先祖以友人马叙伦氏推荐，出任浙江绍兴县知县，以不善理财，任职仅六月，愤而去官，复在杭州、萧山等地从事教育工作。民国二十三年，先祖应聘任上海大同大学教授，讲授国学。抗战时期居乡，拒任伪职，在宗祠以教蒙童维生。抗战胜利后，应旧友沈鸿烈之邀，受浙江省政府咨议名誉职，而实职则在萧山县志馆任编纂。

解放后，先祖以旧友沈钧儒、马叙伦诸氏推荐，被聘任浙江省文史馆馆员。1958年当选为萧山县第三届人民代表。1959年任萧山县政协常委。1962年7月，先祖以高年无疾而终于故里，享年九十岁。

先祖是清末较早接受新思潮、由封建知识分子转化为具有浓郁爱国思想的资产阶级知识分子之一。在他的《匏园诗集》各卷中，任加翻检都可读到若干具有爱国诗情的篇什。如反对帝国主义侵略的有卷6《倭寇行》的指斥日帝侵略，《游江北岸》的抨击英国侵华，卷14《总税务司加官衔》的反对英国侵略分子赫德加官衔；赞成变法的有卷10《读〈公车上书〉》的颂扬康有为是“伟哉南海有人豪，联合公车情允洽”。《八月十三日，六君子成仁，仿老杜七歌以吊之》不仅哀痛变法者的流血，而更大胆地直接痛斥慈禧是“牝鸡司晨失妇德”。同情革命的有卷15《为苏报案章炳麟、邹容下狱，乃醵以周之，延徐紫峰为被告律师翻译，赴会审公堂旁听，归而放歌》一诗，揭示了苏报案的实质是“痛言论之不自由兮，横遭祸殃。”以章、邹的入狱为“因文字而获罪兮，大道晦盲。”卷19《闻皖省之变》与《六月六日闻秋瑾就义》二诗悼念徐锡麟与秋瑾。卷23的《武昌起义》高歌“霹雳一声惊破胆，楚江风雨天昏暗……从今收拾旧山河，赤壁功成奏凯歌。”他如卷11《猛虎行》的刺贪吏；《读〈扬州十日记〉》的抨击清兵在扬“杀人流血暗无天”的残酷。所有这些都反映了先祖随着时代前进的可贵思想。

先祖一生潜研经史诸子，兼擅诗文骈俪，著述闳富，而散失太半，仅就所知有：

(一)《汉文典》7卷，光绪三十二年商务印书馆印本。分《文字典》3卷，《文章典》4卷。

(二)《匏园诗集》36卷(12册)，民国十三年家印本。按年分卷，起己丑，止甲子(1889——1924年)，历时36年，共收古今体诗2400首。

(三)《萧山县志稿》14卷，《志余》一卷，稿本，浙江省图书馆藏本，1991年天津古籍出版社排印标点本。

(四)《萧山人物志》，未刊稿，杭州市图书馆藏。

(五)《杭州玉皇山志》20卷8册，稿本，杭州市图书馆藏，1985年杭州图书馆石印本。

(六)《春秋通义》，未梓。见《匏园诗集》卷21诗题《著〈春秋通义〉成赋此》。

(七)《文学史》，未梓。见《匏园诗集》卷17诗题《暑日，予著〈文学史〉，内子尝伴予至夜分或达旦》。

(八)《中国通史》，未梓。见《匏园诗集》卷22诗题《著〈中国通史〉成，系诗于后》。

(九)《姓氏源流考》2卷，稿本，残本，家藏稿。

(十)《匏园续集》，未梓。见周清水撰《来裕恂传》(《萧山县志》编纂办公室藏稿)。

(十一)《匏园骈体文》，未梓。见周清水撰《来裕恂传》(《萧山县志》编纂办公室藏稿)。

《汉文典》是先祖著述中的代表作。它是先祖留日时愤日人所著有关诸作“非徒浅近，抑多讹舛”，矢自著新编，而于归国后乃屏绝世务，发愤从事，潜心创编的一部重要学术著作。它始著于光绪三十年夏日，当时有诗自纪其事说：

“渡津无筏道其穷，不有辞书孰发矇。五夜机声参入漏，中

宵剑气化为虹。帘垂月照室虚白，窗敞风嘘烛晕红。底事夜深犹剔烬，文思字义为沟通。”（《匏园诗集》卷16《暑日在家无事，著〈汉文典〉以自遣》之一首）

《汉文典》书序记撰书缘起：内则以《马氏文通》“文规未备，不合教科”，外则以日人诸作“类皆以日文之品词强一汉文”，“乃返而求之于《尔雅》，于《说文》、《广韵》之书，于言文体、文法及选文、论文之书”，“以泰东西各国文典之书，详举中国四千年米之文字，疆而正之，缕而晰之，示国民以程途”。

《汉文典》分二典——《文字典》与《文章典》。“《文字典》所以述字之源流及品性；《文章典》所以论文之法则与体格。”《文字典》分3卷：第一卷《字由》，讲述字的起源、功用、称谓及变化；第二卷《字统》，讲述六书及形音义之学；第三卷《字品》，讲述词类。《文章典》分4卷：第一卷《文法》，讲述字法、句法、章法、篇法；第二卷《文诀》，讲述文章风格及结构要求；第三卷《文体》，讲各种文章体裁；第四卷《文论》，讲述文章基本原理，发展历史及作文应注意避免的弊端。

《汉文典》历时二年而成书，光绪三十二年出版问世，当时先祖曾写诗自记其心情说：

“飘零琴剑发长叹，敢作藏山事业观。若问工夫千虑得，为言今古两穷难。学希许郑文班马，法准欧苏义柳韩。得失知凭方寸地，会看拔帜振词坛。”（《匏园诗集》卷18《赴沪为〈汉文典〉出版》）

次年，先祖获悉此书已由提学使支恒荣送部审定，乃自我评论著书本意在于“只为英华便咀含”（《匏园诗集》卷19），表示了为后学尽力的苦心。

《汉文典》的出版曾引起一定的反响，友人某曾以此书有功后学为贺，先祖为此写诗答称：

“周秦汉魏有前程，矻矻经年幸小成。……后学津梁何敢诩，

工夫且自验平生。”（《匏园诗集》卷 21《接友函云拙著〈汉文典〉颇有功于后学》）

《汉文典》的问世对于文章学的研究具有一定的开创之功，但因行文过于简约，缺乏较多具体实例以备参证，致使后学不易尽晓其意。这或是此书长期以来未能引起广泛注意的原因所在。

《汉文典》初印于光绪三十二年，为上下二册装。1949 年复合为一册重印，至今又历四十余年，坊间久已绝迹。1981 年，全国写作学会列《汉文典》入文章学理论丛书，并由南开大学张格、高维国二先生承整理注释之任以应社会所需。张、高二先生所承担的任务是繁重的，但通过他们的整理注释，不仅使《汉文典》能得到更广泛的流传，也使先祖当年的著书苦心复得阐扬，我应向他们表示衷心的感谢。

张、高二先生历时四年余而注释稿即告完成，终因出版困难，迁延岁月而未获问世，中间虽有一二出版社以本书具有相当学术价值而谋付剞劂，奈以财力支绌而不果。1992 年春，我在日本讲学期间，获识横滨中华会馆侨友张湖顺、王庆仁、吴笑安、陈福坡、梁兆华、杜国辉、谢武坤等先生，曾商及《汉文典》出版事，金以先祖曾服务于横滨中华学校，对侨生有所贡献，乃共醵金资助出版；南开大学出版社亦以我曾供职于该社，旧谊难忘，慨允接受。今先祖遗作《汉文典》之广获流传，张、高二先生十年磨剑之辛劳得酬，而我告慰先祖之宿愿得偿，皆当深致谢意于陈福坡先生等眷念耆旧，慨然解囊之盛情。

来新夏  
1992 年 8 月写于南开大学

# 目 录

《〈汉文典〉注释》说明 .....	来新夏
<b>汉文典序</b> .....	(1)
<b>本书大旨</b> .....	(7)
<b>文字典序</b> .....	(9)
<b>文字典</b> .....	(10)
第一卷  字由 .....	(10)
<b>第一篇  字之起原</b> .....	(11)
第一章  结绳 .....	(12)
第二章  河图 .....	(12)
第三章  八卦 .....	(13)
第四章  六书 .....	(13)
<b>第二篇  字之功用</b> .....	(14)
第一章  表思想 .....	(15)
第二章  记语言 .....	(16)
<b>第三篇  字之称谓</b> .....	(16)
第一章  书 .....	(18)
第二章  名 .....	(18)
第三章  文 .....	(19)
第四章  字 .....	(20)

<b>第四篇</b>	<b>字之变化</b>	(20)
第一章	造字	(21)
第一节	适用	(21)
第二节	不适用	(21)
第二章	改字	(23)
第一节	适用	(23)
第二节	不适用	(23)
第三章	字体	(24)
第四章	字数	(26)
<b>第二卷</b>	<b>字统</b>	(28)
<b>第一篇</b>	<b>字之根本</b>	(28)
第一章	六书分释	(29)
第一节	象形	(29)
第二节	指事	(32)
第三节	会意	(32)
第四节	谐声	(34)
第五节	假借	(35)
第六节	转注	(37)
第二章	六书通论	(42)
第一节	六书之原理	(43)
第二节	六书之性质	(43)
第三节	六书之效用	(43)
第四节	六书之归宿	(44)
<b>第二篇</b>	<b>字之纲要</b>	(46)
第一章	形部——体制之学	(51)
第二章	声部——音韵之学	(59)
第一节	音韵之肇兴	(60)
第二节	音韵之变迁	(61)
第三节	音韵之准则	(63)

第四节 音韵之适用	(63)
<b>第三章 义部—训诂之学</b>	(70)
<b>第三卷 字品</b>	(74)
<b>第一篇 名字</b>	(75)
第一章 有形名字	(76)
第二章 无形名字	(76)
第三章 普通名字	(76)
第四章 特别名字	(77)
第五章 指示名字	(77)
第一节 示时名字	(77)
第二节 示处名字	(78)
第三节 示计名字	(78)
第四节 示数名字	(78)
第六章 复杂名字	(79)
第一节 复杂公名字	(79)
第二节 复杂私名字	(79)
<b>第二篇 动字</b>	(93)
第一章 自动字	(94)
第二章 他动字	(94)
第一节 使动字	(94)
第二节 被动字	(94)
第三章 同动字	(95)
第四章 助动字	(95)
<b>第三篇 静字</b>	(103)
第一章 品名静字	(103)
第二章 切指静字	(104)
第三章 泛指静字	(104)
<b>第四篇 状字</b>	(109)

第一章	状时状字.....	(110)
第二章	状地状字.....	(110)
第三章	状象状字.....	(110)
第四章	状量状字.....	(111)
第五章	较别状字.....	(111)
第六章	和同状字.....	(111)
第七章	断制状字.....	(111)
第八章	约度状字.....	(112)
第九章	诘难状字.....	(112)
<b>第五篇</b>	<b>代字.....</b>	<b>(114)</b>
第一章	指名代字.....	(115)
第二章	联接代字.....	(115)
第三章	切指代字.....	(115)
第四章	泛指代字.....	(116)
第五章	疑问代字.....	(116)
<b>第六篇</b>	<b>介字.....</b>	<b>(117)</b>
第一章	着所属之介字.....	(118)
第二章	着所在之介字.....	(118)
第三章	着所用之介字.....	(118)
第四章	着所由之介字.....	(119)
第五章	着所舍之介字.....	(119)
第六章	着所共之介字.....	(119)
<b>第七篇</b>	<b>联字.....</b>	<b>(121)</b>
第一章	类辞联字.....	(121)
第二章	析辞联字.....	(121)
第三章	转辞联字.....	(122)
第四章	原辞联字.....	(122)
第五章	竟辞联字.....	(122)

第六章	譬辞联字	(122)
第七章	例辞联字	(123)
第八章	系辞联字	(123)
<b>第八篇</b>	<b>助字</b>	(124)
第一章	起语助字	(125)
第二章	歇语助字	(125)
第一节	顿语助字	(125)
第二节	止语助字	(125)
<b>第九篇</b>	<b>叹字</b>	(126)
第一章	慨叹字	(126)
第二章	怨叹字	(126)
第三章	赞叹字	(127)
第四章	惊叹字	(127)
<b>文章典序</b>		(128)
<b>文章典</b>		(130)
第一卷	文法	(130)
<b>第一篇</b>	<b>字法</b>	(131)
第一章	语助法	(131)
第一节	起语字	(131)
第二节	接语字	(132)
第三节	转语字	(135)
第四节	辅语字	(137)
第五节	束语字	(139)
第六节	叹语字	(139)
第七节	歇语字	(140)
第二章	形容法	(145)
第一节	单独形容字	(145)
第二节	复杂形容字	(145)

第三节 双声叠韵形容字 .....	(146)
第四节 骈字形容字 .....	(147)
<b>第三章 分析法</b> .....	(149)
第一节 死活之别 .....	(150)
第二节 精粗之别 .....	(150)
第三节 真假之别 .....	(150)
第四节 动静之别 .....	(151)
第五节 轻重之别 .....	(151)
第六节 虚实之别 .....	(151)
<b>第四章 增改法</b> .....	(153)
第一节 增字 .....	(154)
第二节 改字 .....	(154)
<b>第五章 锻炼法</b> .....	(156)
第一节 宜确 .....	(156)
第二节 宜坚 .....	(156)
第三节 宜响 .....	(156)
第四节 宜精 .....	(156)
第五节 宜奇 .....	(156)
第六节 宜丽 .....	(157)
<b>第六章 类用法</b> .....	(159)
第一节 有形类用 .....	(159)
第二节 无形类用 .....	(161)
<b>第二篇 句法</b> .....	(166)
<b>第一章 关系格调</b> .....	(167)
第一节 短句 .....	(167)
第二节 长句 .....	(168)
第三节 错句 .....	(168)
第四节 整句 .....	(169)
第五节 复句 .....	(169)
第六节 叠句 .....	(170)

第七节	排句	.....	(171)
第八节	扭句	.....	(172)
第九节	递句	.....	(172)
第十节	环句	.....	(172)
第十一节	倒句	.....	(173)
第十二节	逆句	.....	(173)
<b>第二章</b>	<b>关系节次</b>	.....	(181)
第一节	锁句	.....	(182)
第二节	撇句	.....	(182)
第三节	插句	.....	(182)
第四节	刺句	.....	(183)
第五节	顿句	.....	(183)
第六节	挫句	.....	(183)
第七节	振句	.....	(184)
第八节	提句	.....	(184)
第九节	宕句	.....	(184)
<b>第三章</b>	<b>关系性质</b>	.....	(190)
第一节	缓句	.....	(190)
第二节	急句	.....	(190)
第三节	轻句	.....	(190)
第四节	重句	.....	(190)
第五节	正句	.....	(191)
第六节	反句	.....	(191)
<b>第四章</b>	<b>关系声情</b>	.....	(192)
第一节	问句	.....	(192)
第二节	讶句	.....	(193)
第三节	诫句	.....	(193)
第四节	叹句	.....	(193)
第五节	断句	.....	(193)
第六节	骇句	.....	(193)

第七节	愤句 .....	(194)
<b>第五章</b>	<b>关系优劣.....</b>	<b>(196)</b>
第一节	句之繁简 .....	(196)
第二节	句之疏密 .....	(197)
第三节	句之纯疵 .....	(197)
第四节	句之洁滞 .....	(197)
<b>第三篇 章法.....</b>	<b>(199)</b>	
<b>第一章 起法.....</b>	<b>(199)</b>	
第一节	顺起 .....	(200)
第二节	逆起 .....	(200)
第三节	直起 .....	(200)
第四节	浑起 .....	(200)
第五节	翻起 .....	(200)
第六节	问起 .....	(201)
第七节	原起 .....	(202)
第八节	冒起 .....	(202)
第九节	喻起 .....	(203)
第十节	排起 .....	(203)
<b>第二章 承法.....</b>	<b>(205)</b>	
第一节	正承 .....	(206)
第二节	反承 .....	(206)
第三节	顺承 .....	(206)
第四节	逆承 .....	(206)
第五节	急承 .....	(207)
第六节	缓承 .....	(207)
第七节	断承 .....	(207)
第八节	阐承 .....	(207)
第九节	分承 .....	(208)
第十节	总承 .....	(208)
第十一节	引承 .....	(208)